

ホヤ胚の中枢神経系に発現する *Otx* 遺伝子の 転写制御機構の比較解析

大沼 耕平

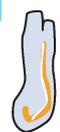
(甲南大学理工学部生物学科・発生学研究室)

2015年 5月 25日 (月) 14時～
14号館地下1階 多目的レクチャールーム

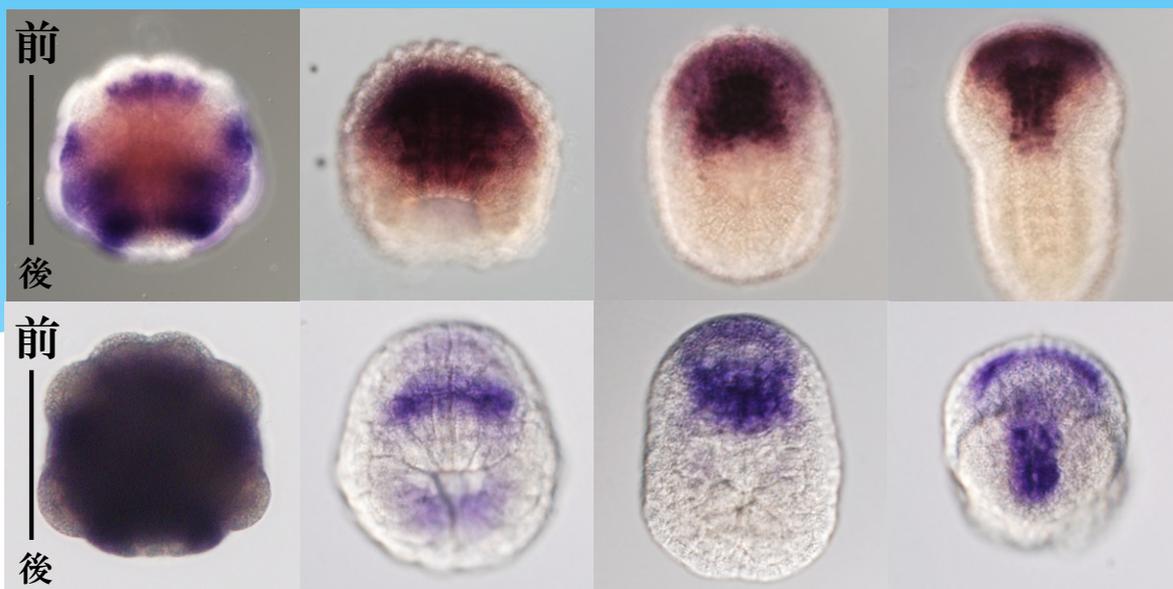
*Otx*は、多くの動物で中枢神経系の前方部の形成に重要な遺伝子である。そのmRNAは、多くの動物に共通して、中枢神経系の前方部を生じる細胞系譜で発生を通して発現している。この連続した発現が中枢神経系前方部を作るのに重要だと考えられている。しかし、どのような分子機構により *Otx* が中枢神経系前方部の細胞系譜で発現し続けるのかは、よく分かっていない。さらに、その分子機構が動物種間でどの程度共通しているのか、また進化の過程で保存されているのかも不明である。これらの問題を追究するために、系統的に遠く離れているにもかかわらず、非常によく似た発生を示すマボヤとカタユレイボヤを用いて、発生を通して *Otx* の転写制御機構を調べて比較してきた。これまでの成果を紹介する。



マボヤ



カタユレイ
ボヤ



連絡先：日下部 岳広
甲南大学統合ニューロバイオロジー研究所
／理工学部生物学科
E-mail: tgk@center.konan-u.ac.jp